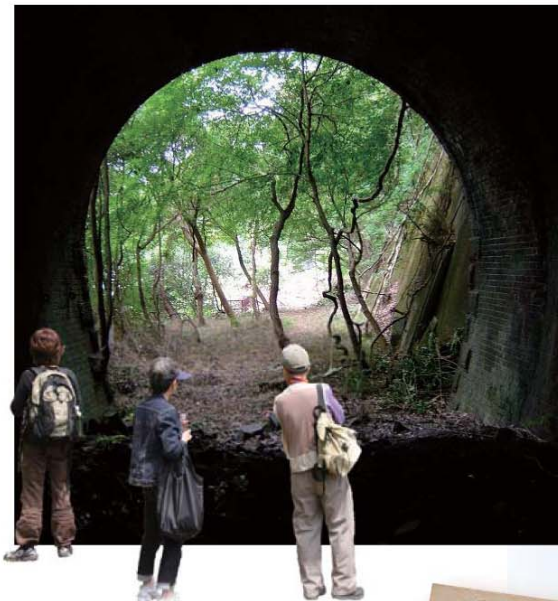


ナショナル・トラスト



廃線後、40余年の間放置されていたため、廃線跡は緑の回廊となっています。

トラスト団体ニュース 愛知で廃線とトンネル群を守るトラストが始動

NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会 (愛知県)

愛知県名古屋市から岐阜県多治見を結んでいた旧国鉄の軌道と13基のトンネル群。愛岐トンネル群保存再生委員会は、この度、民有地となっている約 17 ha の廃線跡を買い取り、この貴重な鉄道遺産と周辺の豊かな自然を一体的に守るための募金を開始しました。

愛岐トンネル群廃線跡再生基金

一口：1,000円

目標募金額：1,500万円

使いみち：廃線跡地の購入費と再生経費

お問い合わせ：☎ 0568-87-6533



募金の領収書は、旧国鉄の乗車券がモデル。

企業ニュース

調剤薬局がナショナル・トラストを応援

日本メディカルシステム株式会社

首都圏・関西を中心に約 60 の調剤薬局を展開している日本メディカルシステム株式会社(本社・東京都)は、千葉県内の薬局でナショナル・トラストの紹介を行うことになりました。11月にリニューアルオープンした店内には、トラスト地の美しい写真が飾られ、薬局を訪れた人々に安らぎを与えています。

薬の多くには、野生の生き物から取れる薬用成分が含まれており、自然を守ることは、薬をつくり届ける環境を守ることにもつながります。当薬局は、このような薬と自然の関係をふまえ、ナショナル・トラストへの支援を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。



食のトラスト

軽井沢高原ビール National Trust

「ナショナル・トラスト」の名前が入った商品にはいろいろありますが、ビールにもその名前が入っています。地域のトラスト活動を応援しようと、地元のビール会社がつくりました。英国式のエール製法でつくられるこのビールは、甘い香りと濃厚な麦の味わいが

楽しめます。売上げの一部は、軽井沢で自然と文化を守る活動をしている「軽井沢ナショナルトラスト」に寄付されます。美味しい思いをしながら地域に貢献できる地ビール、軽井沢を訪れた際はぜひご賞味ください。



ナショナル・トラストと 生命の輝き

ナショナル・トラストと 生命の輝き

私たちの生活の基盤として、なくてはならない自然の生態系。それを支えている重要なメンバーが野生の生き物です。2010年の「国際生物多様性年」を控えたいま、この野生の生き物に国内外から熱い視線が注がれています。来年10月には、生物の多様性を守る国際会議（COP10）が愛知県名古屋で開催されます。議長国である日本は、生態系が守られている保護区の面積の拡大など、具体的な数値目標の設定を各国に求めていくことが検討されています。

湿原や草原、森など、生き物のすみかとなる土地そのものを取得していくナショナル・トラストは、生物の多様性を守る上でとても有効な手段です。全国各地で、このような生き物のすみかを守るトラスト活動が行われています。

ヤイロチョウの 生息する森を守る

生態系トラスト協会



生態系トラスト協会は、ヤイロチョウなどの多様な生命が暮らす森を守る活動をしています。

と名付け、地元の協力を得ながら保全活動を行っています。小さな沢が流れ、広葉樹林が多く残るヤイロチョウの森は、他の多くの夏鳥にとっても好適な場所になっています。現在までに目標の8割にあたる約78haの森を確保しました。森では、今年も新たな命が羽ばたいていきました。



ヤイロチョウの生息する森は、民話と伝説の森でもあります。

高知県四万十川流域の森には、その美しい姿から「森の妖精」と呼ばれるヤイロチョウのすみかがあります。ヤイロチョウは、林床が豊かな天然林を好み、国内で100～150羽ほどしか生息していないと言われています。

（社）生態系トラスト協会では、残されたヤイロチョウの生息地を取得し、「四万十ヤイロチョウの森」

花の湿原を守る

タンチョウをはじめ、多くの貴重な生き物が生息する北海道の霧多布湿原。春から秋にかけてさまざまな花が咲き誇ることから、「花の湿原」として親しまれています。国際的にも重要な湿地として評価され、ラムサール条約の登録湿地に指定されました。

認定NPO法人霧多布湿原トラストでは、この豊かな自然を未来の子どもたちへ残すため、湿原に残る多くの民有地1,200haをトラスト活動で買い上げ、その再生や普及啓発活動を展開しています。現在までに、保全契約も含め、約672haの湿原を守っています。また、今年2月には湿原に残る最大規模の民有地165haの買い取りプロジェクトを開始。全国各地から寄付を募り、2ヶ月弱で目標金額の1,200万円を達成したことが話題となりました。

霧多布湿原トラスト



埼玉県生態系保護協会



生命の森を守る

（財）埼玉県生態系保護協会は、埼玉県内の豊かな自然を残していくため、トラスト活動をはじめ、自治体や県への政策提言や普及啓発などの活動を展開しています。トラスト活動では、見沼たんぼやオオタカのすむ森、サクラソウの自生する湿地など、計7箇所のフィールドで地元の市民団体と連携しながら活動をすすめています。

例えば、秩父の森では、「水のトラストしよっ基金」による水源の森の買い取りを行っています。荒川の上流に広がる秩父の森は、埼玉県民や東京都民の飲み水を支える貴重な水源であるとともに、雨水をたくわえ、多くの生き物を育みます。この森にも、ツキノワグマや猛禽類のクマタカ、カモシカなど、多くの希少な生き物がすんでいます。クマタカのつがいやすめる約2,000haの取得を目指し、現在までに約15haを取得しました。大切な水源と多くの生き物を守るこの活動は、都心の水の一滴につながっています。

今年12月には、生物の多様性をテーマに「第27回ナショナル・トラスト全国大会」を東京都内で開催します。このページで紹介した3団体からの活動報告も予定していますので、ぜひご参加ください。